教団新報

定　価　1部150円（本体137円〒共214円）
予約購読料　1年分　〒共　5,350円
紙代のみ　3,750円
振替 00140―9―145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所　日本基督教団
169-0051　東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内　電話03（3202）0546
FAX03（3207）3918
URL http://uccj.org
発行人　秋山　徹
編集主筆　嶋田恵悟
印刷所　株式会社きかんし

教団会議室のスクリーンを前に

教区議長会議報告

新型コロナウイルスへの対応、教団総会の開催について意見交換

インターネット会議開催

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、多くの教会はイースターやペンテコステを含む3～5月の礼拝や集会に、集うことを制限せざるを得ない状況になった。このような状況下で、教会はどのように過ごし、キリストの体にふさわしい交わりを保ってきたか、教区の情報を交換し合い、また当面の課題を明確にし合うために、インターネット会議が6月12日に開かれた。

参加者は教団三役、沖縄教区を除く全国16教区の議長（2教区は副議長）、予算決算委員長、総幹事、幹事。教団会議室では石橋秀雄議長と秋山徹総幹事、その他の幹事が、参加者の顔が映し出されたスクリーンを前にし、各参加者はそれぞれのパソコンから参加した。

中心的な議題は、(1)各教区の教会がコロナ危機の下でどのように対応しているか、また教区総会についての報告と、そこから生じる意見や要望、(2)今年秋の教団総会の開催をどうするかについての意見の交換で、これらについて各教区議長から聞いた。沖縄教区からも文書で教区の状況は知らされた。

各教区の対応

各教区では、この時期、常置委員会の開催はままならず、教区事務所も閉鎖や限られた日時の出勤といった中で、各教会が礼拝や集会をどのように守っているか、インターネットなどを使っての礼拝メッセージの配信の状況など、アンケートをして情報収集に努め、その情報を各教会に伝える努力をしたことが報告された。地区や分区などのネットワークが活用され、教区が地域的な宣教共同体として機能していたことが窺われた。

その中で教会財政の悪化から負担金の減免や、インターネット機材の整備の援助や助言を求める声も受け止めて、教区として対応を考えると共に教団としても検討するようにとの要望が多く出された。西東京教区や神奈川教区では、小規模の教会や施設にマスクや消毒剤を贈る働き、差別を受けやすい少数者への援助も考えていることが報告された。

ほとんどの教区が総会を書面決議、議決権行使によって法定議案だけの賛否を問う形にしたことが報告された。延期して8月に（東海・神奈川）、9月に（関東）行う教区、後日臨時の開催を考えている教区もある。教区総会が行われないことで准允式や按手礼式を常置委員会の際に行ったり、就任式を兼ねて教会で教区役員が行ったりと様々な工夫がなされた。書面決議や議決権行使の経験は、どの教区にとっても初めての経験で、「教団的に、この行為の規則上の位置づけや手続きの仕方、議事録の記録の仕方など、相談窓口を設けてほしい」、「信仰職制委員会の見解を求めたい」との要望も出された。

すべての教区で、この時期の教会財政が緊迫し、牧師謝儀等に支障が生じている教会があるのではないかとの配慮から、教区負担金の減免処置を検討していることが報告された。一律に1割減を決定している教区もあり、教会からの申し出によって貸出制度枠を広くして利用するようにしたり、それぞれに具体的な支援策を検討し実施している教区もあった。いずれにしても、それらの財源を確保するために各教区が工夫をしている中で、教団負担金の減免に対する要望が強く出された。また、伝道資金の申請についても、各教区負担分についても、この非常事態に対応した処置が必要との指摘があった。

教区や教会を支援する教団の具体的な方策は、石橋議長から「コロナ対策として災害対策基金やその他の資金によって1億円規模の緊急援助を考えている」との発言があり、それに沿って常議員会で審議し、具体化していくことになる。

教団総会開催について

続いて、教団総会の開催に関して意見を聞いた。最初に雲然俊美書記より、「教団総会で機構改定について取り上げるように準備してきたが、各教区総会で議論できない状況で取り上げることができるのか。また、どのような形で教団総会を持つべきか」との課題があることが話された。

ほとんどの教区から、「教区総会で機構改定について議論する予定だったが、できなかったので、教団総会で議題とすることは難しい」、「新型コロナウイルス感染の影響が見通せない状況で、東京で10月に教団総会を開催するのは無理」との判断が述べられた。しかし、「何らかの形での会議を開催する準備は進めるべき」、「書面決議の形でできないか」、「ズーム会議の形でできないか」との意見もあった。

また「教団総会を延期して、余裕が生じた資金を各教区・教会援助に使うべき」との意見もあった。会場予定の池袋のホテルメトロポリタンのキャンセル料が問われ、道家紀一総務幹事より、7月下旬までに申し出れば約300万円、7月を過ぎれば700万円余りの見込みとの報告があった。

この会議で出された意見は、7月6～7日に開かれる常議員会に報告され、話し合われたことに基づいてこの危機に対する教団的な対応の具体的な実施の方向が決められることになる。

（秋山　徹報）

「日本基督教団年鑑」休刊のお知らせ

日本基督教団年鑑2021年版は休刊します。

総幹事　秋山　徹

お知らせ

「教団新報」今号を4928・29合併号とし、次号は8月1日に発行します。

総幹事　秋山　徹

第7回常議員会開催について

今回の常議員会（7月6～7日）は、職責上の陪席者（常設委員会委員長、教区議長他）の出席は控えて頂き、常議員のみでの開催といたします。ただし、事務方および広報関係の陪席は認めます。

傍聴者は、オンラインを含めて認めません。

また、議事によって必要な場合は、その時間のみ該当する担当者の出席を要請することもあります。

総幹事　秋山　徹

秋季教師検定試験に関する公告内容の変更について

2020年度秋季教師検定試験の学科試験・面接試験を、9月15日（火）～17日（木）大阪クリスチャンセンターで開催することを公告しました（3月28日・「教団新報」第4923号）。その後、新型コロナウイルス感染症が拡大し、秋以降どのような状況になっているのか予測することは困難です。教師検定委員会は試験方法を巡って、様々なシミュレーションを立て、検討してきました。受験志願者が様々な交通機関を用いて受験会場に集まり、一堂に会して試験を受けることは、感染リスクを伴います。何よりも受験志願者の安全を確保することを優先しなければなりません。

これらを踏まえ、教師検定委員会として、次のような決定をいたしました。今年度秋季教師検定試験の学科試験はレポートで行います（面接試験はオンラインで行う方向で検討中）。詳細は受験志願者に通知いたします。不明な点は直接、当委員会（℡03-3202-0546）へお問い合わせください。

2020年6月27日

教師検定委員会

荒野の声

新型コロナウイルスの感染が拡大し、人々が不安を抱いて過ごす中、度々「ウイルスは武漢の研究所が発生源で人為的なもの」との主張が聞かれた。▼この件についての真実は分からないが、似たようなことはかつてもあった。地震や台風といった自然現象の際にも、限定的ではあるものの、それが人為的なものであるとの陰謀論が語られた。▼想定外の事態や、真相が分からない出来事に接する時、「対立している隣人の仕業」とする受け止め方が一定の支持を得る。客観性を欠いていても、そのような主張が受け入れられる現実は、そう受け止める人々の内に、他者に対する恐れや攻撃性が潜んでいることを映し出しているのかもしれない。知識の木の実を食べたことで、互いに裁き合い、自らを守らざるを得なくなった人間の悲惨を思う。▼旧約の預言者たちは、強大な敵が迫って来るという現実に直面し、敵の背後に主なる神の働きを受け止め、それを悔い改めの時として民に語った。想定外の出来事によって人間の営みを自粛せざるを得ない中で、私たちが、何に目を向け、何を受け止め、何を語るのかが問われているように思う。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う
「緊急事態宣言」の渦中で

神学者たちの声に聞く

時代と他者に出会い直して行く教会

柳下 明子《日本聖書神学校教授／歴史神学》

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、「不要不急」の外出の自粛要請が始まると、地域によっては主日礼拝を会堂で行わない、または教職のみで礼拝を献げる、ということが起こりました。

カトリック教会では感染拡大を防止するのは愛の業であるとの判断で、2月末には東京大司教区では信徒の「ミサの免除」が宣言され、公開のミサは中止となりました。日本聖公会でも教区によっては「公祷」の休止を決定しました。東京教区ではその決定の後、主教の司式する聖餐式の配信を教区が始めています。これらの教派においては各個教会の個別の礼拝の状況に関わらず、司教の献げるミサや、主教の献げる聖餐式を通して教会の公同性は保たれることになります。ルター派の教会ではルターの著作から、主日礼拝は律法的に特定の場所や時間に拘束されるものではない、という共通理解を確認することで、家庭礼拝を意味づけることも可能でした。

「教会は主の日毎に礼拝を守り」と教憲に定め、各個教会主義に立つ日本基督教団では礼拝共同体の公同性はどのように保たれるのでしょうか。

「不要不急」の活動の自粛を要請される地域で礼拝をどうするのか、ということは当然のことながら教会の状況に応じて判断することになります。多くの教会が厳しい決断を迫られたことと思います。「もし、教会が集団感染を起こしたら」、「礼拝出席者をいのちの危険にさらすのか」、「『自粛要請』などという一切の拘束力を持たないものに従って主日の礼拝を休むのか」、「礼拝は『不要不急』なのか」。

これらの問いに正解が与えられていれば、どれだけ楽なことでしょう。

会堂に於ける礼拝を休止した教会では、週報を基に会員が家庭礼拝を持つことを勧めたり、ウェブで礼拝を中継したりして、伝統的な文書伝道と新しいツールを用いた牧会を展開してきました。この経験は、今後感染症の拡大が落ち着いて各地で礼拝堂に人が集まる日々が戻ってきたとき、必ず教会を支えるものになるはずです。教会は自分たちが何を大切にするものであるかを明確に自覚して、様々なツールをもって宣教に向かうものになったからです。

日本聖書神学校でも前期の授業は遠隔で開始しましたが、学生が「同じ教室で共にいるということに聖霊が働いていることがわかった」という感想をもらしました。不便や喪失の中で、本質的なものを発見することがあります。そして学生たちには、「各個教会主義の教会に仕える牧師は、とにかくよく学び、遣わされた教会の状況をよく見て、柔軟に対応することが必要」ということを伝えました。先人の神学者たちの言葉に学び、他教派の実践と対話することは、各個教会主義の教会が不安の中で立って行くときの支えです。

分断と経済的破綻が一層深まったこれからの世界には、教会の果たすべき役割はますます大きいでしょう。対話に対して、社会に向けて「開かれている」ことが教会に一層求められます。共に時代と他者に出会い直して行きましょう。

コロナ後の「新しい日曜」

関谷 直人《同志社大学神学部教授／実践神学》

私が協力牧師として関わっている教会は、もともと自前の礼拝堂を持たず、幼稚園の園舎を借りて毎週の礼拝をしてきた。だから新型コロナウイルスによる幼稚園の通園停止に伴って、必然的にこの教会は礼拝する場を持たなくなったのである。

そこでこの教会では、副牧師がビデオカメラとPCの動画編集ソフトを駆使して作成した「礼拝動画」をユーチューブにアップロードし、毎週日曜日の朝に信徒がそれを視聴できるようにしてきた。

悪いことばかりではない。聴覚が弱ってきた高齢者の信徒からは、「音声が礼拝のときよりもはっきり聴こえる」との声があり、自発的に「最近の動向」として写真や短信をメールで送ってくる信徒も現れた。それらを紹介した次の週の動画の「報告」は、信徒同士の交わりを維持する上で大切なやり取りの一つとなっている。

顔と顔とを合わせてでなければ礼拝とは言えないという思いはわかる。しかし、今回の「新型コロナ」下においては、礼拝堂での対面式の礼拝の中断を決定した教会は「苦渋の決断」（決して「苦肉の策」ではない）として、オンラインによる礼拝映像・音声の配信や説教原稿の配布を行なってきた。そのような礼拝の形を、単なる緊急避難時の「礼拝の代替措置」で片付けてしまうのはあまりにもったいないではないか。むしろ、ここで得たものを今後の礼拝や交わりのバリエーションの一つとして捉え、深めることが大切ではないかと思うのである。

私たちの教会には、特に「コロナ」に関わらず、礼拝に来ることが困難となった高齢者が大勢いるはずである。障がいがあったり、仕事や家庭の事情でなかなか礼拝に来ることのできない信徒や求道者も少なくないだろう。もし、顔と顔とを合わせて礼拝することだけが真の礼拝であり、その場に身を置くものだけが礼拝に参与しているのだとするなら、様々な事情で対面式の礼拝に参与できないこれらの人々を、共同体において区別し、そこに見えない「垣根」を作ってしまうのではないか。

コロナ後の「新しい日曜」を考えてみたい。対面式の礼拝に、今回の経験で培ったスキルを生かして（ハイテク・ローテクは問わず）様々な「礼拝」のバリエーションを（毎週とはいかないとしても）加えていく。そうすれば、日頃礼拝に出ることが困難な人々が「垣根」なく、そこに参与することができるようになるのではないだろうか。もちろん、そのために牧師個人に「過度な負担」が生じないように、信徒と牧師が知恵を出し合う必要があるだろう。この「コロナ」の苦しみを一過性の「苦難」としてではなく、"inclusive"で"universal"な礼拝を考える契機としたい。

神の招きによって自発的に集まる群れ

須田　拓《東京神学大学教授／組織神学》

教会は「恵みにより召されたる者の集ひ」、即ち、神の招きによって集められ、信仰と洗礼によってキリストに結ばれた者の群れである。その群れは、「公の礼拝を守り」というように、全ての人に開かれた礼拝を守り、そこで福音が正しく宣べ伝えられ、聖礼典が執り行われる。それは、神が招かれ、信仰へと導かれる方を、いつでも受け入れる用意があるということでもある。

日本の教会は、（国教会体制ではなく）自由教会として、この地に福音を宣べ伝えたい、また、ここに教会が必要であるとの、信仰による自発的な思いによって建てられてきた教会であり、神の招きと導きの下、一つの信仰の内に、自発的に礼拝しようと集まる者の群れであることを大切にする伝統を持つ。そのことに鑑みれば、今回の新型コロナウイルスの問題への対処も、自粛要請の有無によるのではなく、専門家の説明やガイドライン等を参考にしつつ、自発的に判断する必要があろう。

逆に言えば、今回、都道府県知事による自粛要請から教会は明示的に除外されたが、それは何の対策もしなくてよいことを意味せず、私たちが自ら考え判断しなければならまい。その中で、どうしても感染のリスク、また感染させるリスク等を回避できないと、会堂に集まることを避けて自宅で礼拝する、あるいは会堂で行われている礼拝の中継を視てそこに心を合わせるという判断を個々人がすることもあり得るであろう。

教会が、神の招きと導きによって、共に礼拝しようと自発的に集まる者の群れであるならば、本来、そこに来られる方がある限り、礼拝は守られ続けることになる。まずは、個々人に与えられた礼拝への思いを最大限に尊重し、礼拝が感染拡大の場とならないためにどのような対策を取ることができるか、群れとして、礼拝を守るための出来る限りの検討をしたい。その上で、なおどの程度の公衆衛生上のリスクがあるのかを踏まえ、群れとしての判断も必要となる。

その中で、看過できない危険があるとして、やむを得ず、会堂に集まっての礼拝を限定あるいは休止するとしても、本来教会が礼拝に集められた「群れ」であることをどのように共に意識することができるのか、そして、このような不安な時であるからこそ神に心を向けようという方が興された時に、その方々をどのように群れに受け入れるのか、十分に考えておく必要がある。

このような時であるからこそ、「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」とあるように、私たちは御言葉に聞き、主が確かにおられることを信ずべきであるし、そのための信仰生活が貧しいものになってしまわないように注意したい。そして、ここに確かなものがあることをどのように指し示すことができるのか、祈りを合わせたい。

「外国人ヘイト」による人権侵害に抗議する声明

新型コロナウイルスの感染リスクに社会が脅かされる中で、外国人に対するヘイトスピーチなどの人権侵害がもたらされています。

先日、外国人とかかわりのある特定の事業所に対し、「日本キリスト教団」の名を不当に用いて「早く日本から出ていけ！」などと記した文書が送られたことが判明しました。理不尽な憎悪をあらわにした文書によってどれほど深い痛みと傷がもたらされたかを思うと心が痛みます。被害に遭われた方々に慰めと癒しを切に祈ります。

このような醜悪な文書に「日本キリスト教団」の名が利用されたことに深い憤りを覚えます。今後、必要な対応措置を行っていくと共に、もし他にも日本基督教団にかかわる類似の事例があればお知らせいただけますよう呼びかけるものです。

日本基督教団は、すべての人の命を贖うキリストへの信仰に基づき、「すべての人と平和に暮らしなさい」（ローマの信徒への手紙12章18節）との御言葉に従って、差別のない社会が実現することを願い祈り、そのための愛による働きにあずかることを志しています。緊張と不安に満ちた今日の状況の中でこそ、社会の中で弱い立場に置かれた人々が守られ、支えられなければなりません。社会の動揺に乗じたいっさいの差別に反対し、この社会に生きるすべての人々の人権が守られるべきことを改めて表明します。

2020年5月29日

日本基督教団　総会議長　石橋秀雄
総幹事　秋山　徹

教区議長コラム

◆ 神奈川教区 ◆

三宅　宣幸

COVID19への教会の対応

COVID19による肺炎に、教会が対応しようとするとき、多くの困難が伴う。まず第一に、患者との対応。医療関係者でさえ命がけの現状において、教会が、患者に直接寄り添うことは不可能である。教会も、感染リスクを避けることに集中せざるを得ない。また、公衆衛生の問題から、教会も行政の指導に従う必要がある。

しかし、これらの諸困難にもかかわらず、私たちが忘れてはならないのは、イエスが「重い皮膚病」の患者に対してなされた業である。「手を差し伸べてその人に触れ」（マルコ1・41など）、「病による差別」の克服である。教会もイエスの基本姿勢を忘れることなくこの困難に立ち向かっていきたい。

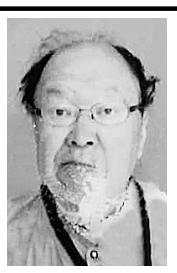
私事で恐縮であるが、私の祖父は結核患者であった。私の父は、日本基督教団教師として、家庭で、結核患者である祖父の介護をしながら開拓伝道を開始した。部屋を別にしていたとはいえ、よくも教会に感染者が出なかったものである。しかし、私は感染した。1960年に祖父は天に召され、ほぼ同時に新会堂ができ、感染リスクの問題は解決した。

しかし、問題は、それだけでは済まなかった。父自身が実は、徴兵検査の時、結核療養所で療養していたことを隠していたのである。父は、「兵役逃れ」、「非国民」というレッテルを一人で耐えていた。そして、本人がこの事実を家族にさえ明かしていなかったがゆえに、教会がその痛みを受け止めることはできなかった。私たちがその事実を知ったのは、父の葬儀の日、伯父の口によってであった。

COVID19は、結核菌と同様に感染力が高い。この病と取り組むためには、医学的知識と、イエスの愛の総力をもって臨むことが求められると思う。

（神奈川教区議長）

事務局報

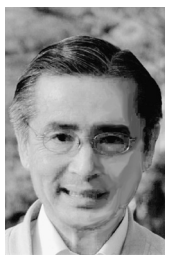


西尾市郎（うるま伝道所主任担任教師）

20年4月6日逝去、72歳。岡山県生まれ。76年農村伝道神学校卒業。同年より信濃町、真和志教会、うるま伝道所を牧会。遺族は妻・西尾照子さん。

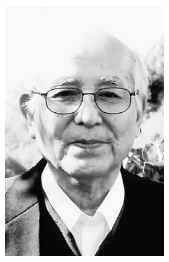
寺尾達彦（無任所教師）

20年5月4日逝去、67歳。石川県生まれ。81年東京神学大学大学院卒業。同年より山田、愛知守山教会を牧会し、金城学院中・高等学校に務める。遺族は妻・寺尾恵理子さん。



糸井国雄（隠退教師）

20年5月22日逝去、77歳。東京都生まれ。72年同志社大学大学院卒業。73年より霊南坂、岩国東、錦林教会を牧会し、09年隠退。遺族は妻・糸井そのえさん。

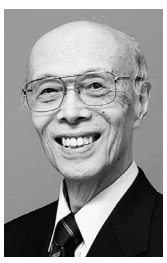


河野　修（隠退教師）

20年5月30日逝去、93歳。埼玉県生まれ。52年日本聖書神学校卒業。同年より池袋西、本所、松山榎町、松山山越教会を牧会し、98年隠退。遺族は息・河野聖使さん。

野本益世（別帳教師）

20年5月30日逝去、84歳。兵庫県生まれ。60年同志社大学大学院卒業。同年より甲東、神戸教会を牧会。遺族は夫・野本真也さん。



松野俊一（隠退教師）

20年5月31日逝去、94歳。東京都生まれ。64年東京神学大学大学院卒業。同年より宮城学院に務め、長崎、千代田教会を牧会し、96年隠退。遺族は妻・松野ヤスコさん。

増田一枝（米原伝道所主任担任・八重山中央教会兼務担任教師）

19年10月4日逝去、76歳。沖縄県生まれ。70年農村伝道神学校卒業。72年より平真、八重山中央教会、米原伝道所を牧会。遺族は夫・増田陽一さん。

補教師登録

松浦子基（2020・4・29受允）
吉川庸介（2020・5・12受允）
山森風花（2020・5・13受允）
柳澤宗光（2020・5・1受允）
吉川　良、濱田美惠子、金澤友幸（2020・5・18受允）
松永明夫（2020・5・19受允）
敦森幹生、金　元基、嶋田百々子、三好祐輝、山本美保子（2020・5・26受允）

正教師登録

疋田　充（2020・4・29受按）
韓　亨模（2020・5・18受按）
小西清信（2020・5・19受按）

教師異動

片瀬　辞(代)小林誠治
〃　就(主)西田直樹
茅ヶ崎　辞(主)櫻井重宣
〃　就(主)田村　博
鎌倉　就(担)坪内克浩
西条栄光辞(担)田中尚美
清水ヶ丘就(担)田中尚美
女子学院中学高校　就(教)石原勝代
聖学院中学高校　辞(教)百武真由美
遺愛女子中学高校　就(教)百武真由美
酪農学園大学附属とわの森三愛高校　辞(教)肥田信長
香川豊島辞(担)山本孝根
内海　就(担)山本孝根
仙台東辞(主)清水与志雄
〃　就(代)小林　休
川谷　辞(主)土谷良泉
〃　就(主)清水与志雄
武蔵野緑辞(主)柳下明子
〃　就(主)土谷良泉
ひばりが丘　辞(主)山田恵子
〃　就(代)柳下明子
茅ヶ崎平和　辞(主)大澤秀夫
〃　就(主)山田恵子
蒔田　辞(担)縣　洋一
中野桃園辞(主)下田洋一
〃　就(主)縣　洋一
蒲田　就(代)藤崎義宣
大森めぐみ　辞(担)林　尚俊
〃　就(担)福本英明
森小路　辞(主)鈴木淳一
〃　辞(担)鈴木裵善姫
〃　就(主)林　尚俊
海老名　辞(代)笹野信治
〃　就(主)鈴木淳一
〃　就(担)鈴木裵善姫
仙台北　辞(主)小西　望
〃　就(代)原　誠
天満　就(主)小西　望
南紀の台辞(主)小林隆史
〃　就(代)南澤　望
茨木　就(担)小林隆史
玉島　就(代)阪西恵理子
天城　辞(主)田中寿明
〃　就(代)中井大介
播磨新宮辞(代)中村悦子
〃　辞(担)中村悦子
〃　就(主)田中寿明
芦屋西　辞(主)山田　謙
仙台五橋辞(主)豊田通信
〃　就(主)山田　謙
小田原　辞(代)高岡　清
〃　就(主)豊田通信
岩国　辞(主)大川　清
常磐　辞(主)明石義信
〃　就(主)大川　清
磐城　辞(主)疋田　充
安芸　辞(代)岡本康夫
〃　就(主)疋田　充
三瓶　辞(代)東島勇気
〃　就(代)森分信基
下石神井辞(主)徳田　亮
〃　就(主)小出　望
佐原　辞(担)発　将貴
西福岡　辞(代)金田俊郎
〃　就(主)発　将貴
小林　辞(代)竹井眞人
〃　就(代)山口英希
島田　辞(代)石井佑二
〃　就(代)堀地正弘
矢吹　辞(担)川上　侑
〃　辞(担)川上野ゆり
各務原　辞(主)杉本和道
〃　就(主)川上　侑
〃　就(担)川上野ゆり
真駒内　辞(代)大倉一郎
〃　就(主)杉本和道
札幌北光辞(担)野田　祥
香椎　辞(主)新堀真之
〃　就(主)野田　祥
甲東　辞(主)西澤他喜衛
〃　就(主)新堀真之
〃　就(担)西澤他喜衛
遠野　辞(主)三浦洋一
〃　就(代)柳谷雄介
美里　辞(代)高多　新
〃　就(主)三浦洋一
栃尾　辞(主)手束信吾
水海道　辞(主)加藤久幸
〃　辞(担)加藤輝勢子
〃　就(主)手束信吾
所沢みくに　就(主)加藤久幸
〃　就(担)加藤輝勢子
聖学院大学　辞(教)久保哲哉
聖学院中学高校　就(教)久保哲哉
南山　辞(担)本間優太
神戸雲内辞(主)床次隆志
〃　就(主)本間優太
金沢八景辞(主)池内　裕
〃　就(主)床次隆志
延岡城山辞(代)藤原　仰
〃　就(主)池内　裕
鎌倉雪ノ下　辞(担)上野峻一
〃　就(担)嶋貫佐地子
名古屋堀川　辞(主)島しづ子
〃　就(主)島　耕一
うふざと辞(代)平良　修
〃　就(主)島しづ子
熊取　辞(主)竹田常司
〃　就(主)濱田美惠子
御坊はこぶね　辞(代)清藤　淳
〃　就(主)吉川　良
徳山　辞(代)橋本直行
〃　就(代)足立麻子
今治　就(担)吉川庸介

お詫び・訂正

教団新報4926・27号4面「事務局報」欄、4段目右から8行目「辞」→「就（代）山田詩郎」に、お詫びして訂正いたします。

日本伝道の推進を祈る日

頌主。

「日本伝道の推進を祈る日」（毎月第3主日）におぼえる『信徒の友7月号』の掲載は「兵庫教区」と「東中国教区」の教会です。全教団的に祈り合い、支え合い、推進していきましょう。

『信徒の友』を購入して、お読みの上、お祈りください。

2020年6月27日
日本基督教団総幹事
秋山　徹

☆教会幼稚園融資金募集☆

幼稚園の土地拡張、増改築、新築のため、幼稚園融資金2020年度分を次の要領で募集します。

◎金額　50万円～300万円
◎返済期限　5年以内
◎利子　期限内　年1%
　　期限後　年2%

2020年度は総額600万円を2～3の教会幼稚園に貸し出します。希望幼稚園は、教区事務所を通して教団教育委員会まで申し込んでください。締切は、8月31日。融資規定、申請書は、教育委員会（☎03-3202-0544）。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う『緊急事態宣言』の解除にあたって（第四信）

2020 年 5 月 29 日
日本基督教団　総会議長　石橋秀雄
総幹事　秋山　徹

ペンテコステ（聖霊降臨）の喜びのときを迎えようとしているこのとき、「緊急事態宣言」の解除が出されました。未だ油断することは出来ませんが、新型コロナウイルスによる感染拡大が一時的に収まりつつあることに感謝をささげます。

この２ヶ月近くの間、諸教会・伝道所、関係団体・学校の教師と信徒および教職員の方々におかれては、本当に厳しい日々を送られたことと思います。

わたしたちプロテスタント教会の命である『礼拝』を守るために、この期間、祈りと力と知恵を尽くし続けました。ある教会は「苦渋の決断の中で、礼拝を休止しました」。ある人は「神の愛の業として、感染者にならないために、礼拝へ出席することを控えました」。

一つひとつの教会・伝道所が、学校・団体が、そして、そこに生きる一人ひとりが、神への信仰の決断の下、様々な選択をされたことと思います。そのすべてにおいて、主の豊かなる顧みがありますようにと祈ります。

教団としては、4 月 10 日付で『新型コロナウイルス感染拡大防止に関する声明』を公表し、『極力、教会に集わない方法で礼拝をささげることを講じてください』など 4 項目について強くお願いをいたしました。多くの教会・伝道所あるいは関係団体において、お願いを受け止めてくださったことを感謝いたします。現段階で、感染拡大への警戒をなお解くことはできませんが、上記の「お願い」については所期の目的を一応達したものといたします。

今後、それぞれの教会・伝道所のご判断で、徐々に、あるいは段階的に、通常の活動の回復をはかっていかれることと思いますが、なお、以下の諸点についてご配慮ください。

⑴第一信にてお伝えしましたように、三密（密閉・密集・密接）を避ける方法で、礼拝やその他の集会を行ってください。また、換気と消毒にはくれぐれも留意をお願いいたします。
⑵主日礼拝や大きな集会は、時間差で、数回に分散して行うことも一つの方法です。
⑶これまでのデータから分かりますように、高齢の方、基礎疾患のある方は、感染によって重症化する確率が高いことが分かっています。体調の変化などがみられた場合は、礼拝などに出席はされず、自宅で過ごされることをお勧めください。
⑷今回の感染拡大によって、教会の内外で、傷つき、痛みを負った大勢の方々がおられます。その方々へ愛の配慮をいたしましょう。

聖霊降臨は、愚かな一致を図ろうとした人間の罪によって散らされた“民”が、聖霊によって再びまことの一致に導かれた出来事です。イエス・キリストの霊によって、一人ひとりが豊かに結ばれています。主が与えられている恵みと賜物に感謝して、なお、一層、諸教会・伝道所と関係団体・学校とが、そして、一人ひとりが、なすべき務めに仕えて、連帯して行きましょう。

▼教育委員会▲

「台湾ユースミッション」中止

第５回教育委員会が６月８日に開催された。ズームを用いたオンライン会議であった。

２０１９年度のクリスマス献金から、特定非営利活動法人アジアキリスト教教育基金（ＡＣＥＦ）に１００万円、アイヌ奨学金（北海教区アイヌ民族情報センター）に１００万円、東北教区放射能問題支援対策室いずみに１５０万円、それぞれ献金することが決定された。

また、今年度の表彰バッジ・表彰状については、精勤者の表彰を目的とするものではなく、集まれない状況にあるＣＳで豊かに用いられるような仕様とする。

教育委員会関連の行事として、中止を余儀なくされたものもある。主なものとして、台湾ユースミッション（８月17～25日、岡山・広島）、教区青年担当者会（９月７～８日、神戸、但しオンライン会議で行うことを検討中）がある。台湾ユースミッションはすでに青年たちによる準備が始まっていただけに、悔しい思いが委員会にも伝わってきた。

昨年度はキリスト教育主事の志願者が与えられなかった。今年度、もし試験をする運びとなった場合、集まらないやり方での試験方法を考えることが確認された。

顔を合わせて詳細を決めるべき内容が多くあった委員会であり、３時間に及ぶオンライン会議は、内容によってメールのやり取りで補足する必要もでてきたが、開会礼拝から閉会祈祷まで支障なく行うことができたことは感謝である。

（望月麻生報）

牧会者とその家族のための相談室からのご案内

心傷ついたとき、ひとりで悩むとき、どうしたらよいか考え込むとき、お電話・メールください。

【相談電話】
毎週月曜日 10時～ 16時
（12時～ 13時は休憩）
03－6228－0016
【相談メール】
8月末日まで24時間いつでも
past.uccj@gmail.com
＊詳しくは日本基督教団ホームページをご覧下さい。

「障がい」を考える小委員会よりお知らせ

10月5～6日に開催予定であった、第7回「障がい」を考える全国交流会は、新型コロナウイルス感染症のため、中止します。

委員長　竹村眞知子

教会の領域

新型コロナウイルスのパンデミック（世界的流行）がおさまりそうもない。ドイツ在住の作家、多和田葉子さんが「コロナ・テスト」と表現していたが、今や世界のシステムのあらゆる要素に深刻な問いが突き付けられテストされている。教会も例外ではない。この事態の中、教会はどうふるまうか、何をしているのか、教会とは何なのか、深刻に問われている。

中世ヨーロッパで「黒死病」が流行した際、各地の修道院が病人の看病に尽くした一方で、わが身を守ろうと逃避した上級聖職者も多かったという。彼らへの不信感が後の宗教改革にも影響したとの指摘もある。

さかのぼって三世紀にローマ帝国を襲ったパンデミックは、当時まだ少数派だったキリスト教の進展をうながしたと言われている。疫病のもたらす死を神々の懲罰と恐れ、感染者が手当てもされず放棄される中、キリスト者たちは死を恐れず隣人たちの看病にあたった。それによってキリスト教への信頼が高まったというのだ。

もちろん今日では、医療や看護はもはや教会が直接担える領域ではない。しかし、では教会は何をするのか。恐れに支配されることなく愛によって仕える働きが、なお教会の領域として託されているのではないか。それが具体的に何なのか、どうすればよいのか、深く重い問いを前に、たちすくんでいる。

（教団総会副議長 久世そらち）

ひとときの人

加藤　功子（あつこ）さん

病気でしばらく休んだ後、礼拝に行くと驚くことがあった。エレキギターを大音量でかき鳴らしている男性がいた。聞けば奥さまを亡くされたが、その無二の友人が教会員にいて、追悼の思いを携えて来て何週かギターを礼拝後に披露しているというのだ。

圧倒される教会員も多かったが、加藤さんは心惹かれるものがあった。

若い頃からクラシックギターの音色が好きで、楽器も手には入れていた。何十年も放ったらかしであったが、ふと再び手に取ってみた。つま弾く音色は美しく、本気で習いたい思いが湧き上がった。くだんの男性に弟子入りを申し込んだ。

メキメキ上達……というわけには、決していかなかった。新しいコードを押さえるのも、ままならない。

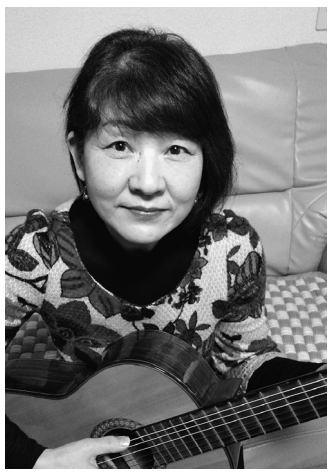
加藤さん曰く「Ｆのコードは、汚いですね」。

師匠曰く「そりゃあなたの押さえ方が汚いんだ」。

遅々たる歩みながらも、大いに笑いを交えながら、楽しいレッスンが続いた。正攻法でコードを弾くだけでなく、息抜きの仕方も教わった。第一弦だけで「禁じられた遊び」のメロディーを奏でることができ、少しだけ自信が持てるようになった。一緒にレッスンを受けた初心者がコードの少ないこどもさんびかの一曲をストロークで、加藤さんは自分の好きな弾き方のアルペジオで、二重奏の伴奏ができたことは嬉しい思い出になっている。

まだまだ人前で披露するような腕前ではない。それでも、教会の仲間たちが牧師を含めて、自分の得意分野の楽器で賛美をリードしている姿を見ると、自分もその役目を務めようという思いが厚くある。素直に自分が好きだと思えるクラシックギターの音色を、ゆっくりではあるが少しずつ成長させて、皆と賛美において分かち合いたいと切に願っている。

賛美において分かち合う日まで



秋田桜教会員。今年の教会の賛美礼拝にはギターではなく、歌唱で参加